人工歯排列時の左右対称性の確認に幾何学定規を用いた方法

伊佐次厚司　Isaji Atsushi
愛知医科大学病院歯科口腔外科技工室
愛知県歯科技工士会所属

1．はじめに

咬合器は「矢状正中面」，「咬合平面」，「下顎頭から咬合平面に下した垂線」，および「ボンウィル三角で形成される三角形」を基本の設計とされ左右対称に作られている．

そのため咬合器上で排列される人工歯は水平面観において咬合器に設定されているボンウィル三角の前方基準（切歯点）に合わせて左右対象に排列されるべきである．

しかし，目測で行うと対称性を確保することが難しい．そこで今回，前歯部人工歯排列時に左右対称性の確認に幾何学定規を用いた方法を紹介する．

2．材料と方法

作業模型装着時に正確かつ確実に矢状正中面等の基準平面が再現でき，切歯指導釘および指導標を有する咬合器と幾何学定規（幾何学定規 分度器付 SO 237-630，ロットリング）（fig.1）．

fig.1

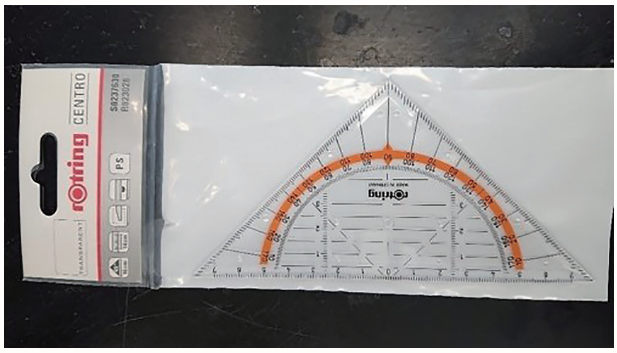

fig.1　今回使用した幾何学定規

まず，人工歯排列の前に水平面観における咬合器上の正中を作業用模型水平面上に描記する．そして口腔内で歯科医師により顔貌等の情報が調整されたろう提ならびに解剖学的指標を目安に人工歯排列を行う．

排列終了後，幾何学定規の底辺の中点から頂点に向けての垂線を作業用模型正中線に合わせ底辺の中点から左右 45 度に引かれてある線と先の底辺の中点からの垂線に垂直に 5 ㎜毎に引かれた線をガイドに左右対称性を確認する（fig.2,3）．

fig.2

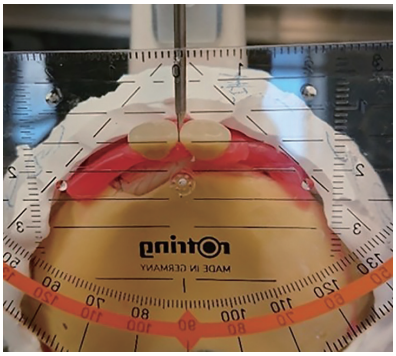

fig.2
水平面観における上顎中切歯排列の対称性の確認

fig.3

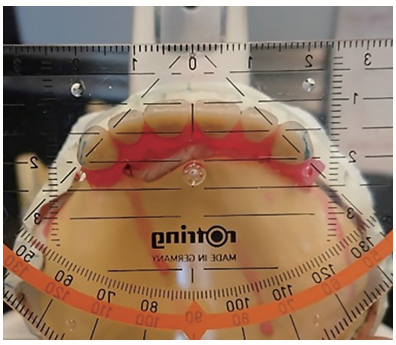

fig.3
水平面観における上顎前歯排列の対称性の確認

3．結果と考察

今回使用している幾何学定規はいろいろな角度でガイド線があるので対称性の確認がしやすく，経験の有無などに左右されず客観的に確認できた．また水平面だけでなく，前頭面観での正中線に合わせるとスマイルラインの確認ができるなど人工歯排列時にいろいろな使用方法が考えられる（fig.4）．

fig.4

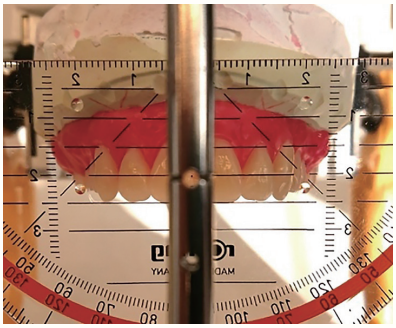

fig.4
前頭面観における上顎前歯の対称性の確認

4．おわりに

目視では周りのモノに影響を受けて正しい判断ができないこともある．今回の報告が義歯製作の一助になれば幸いである．